

石木ダム訴訟原告団事務局の松本美智恵と申します。私が石木ダム問題に関わって 12 年になりますが、そのきっかけと石木ダム反対運動の現状をお伝えしたいと思います。

#### <きっかけ>

私は 2008 年の夏、埼玉県から長崎県佐世保市に移住し、初めて石木ダムという言葉に出会いました。写真 1~4 今では慣れっこになってしまった光景ですが、当時はギョッとしました。そんなに市民が熱望している石木ダムってどういうものなんだろう？と興味が湧き、その年の秋に佐世保市で開かれた初めての石木ダム学習会に参加しました。

ところが、そこで学んだことは石木ダムの重要性ではなく、「佐世保市の水需給計画は過大であり、石木ダムは不要」と語る学者の講演ビデオや、ダム建設予定地住民の方による訴えでした。その若者は「なぜ僕たちが佐世保の犠牲にならなければいけないんですか？」と問いかけ、佐世保市民となったばかりの私の心に強く響きました。

そこで、その日発足した『水問題を考える市民の会』に即入会し、その後の学習会に全て参加しました。水道局職員による説明や開示されたデータ、石木ダム事業再評価資料、新聞記事等々を通して学んだ結果は、「佐世保の水は足りている。少なくとも生活に困ってはいない。これからは人口減少でもっと水需要は減るだろう。ならば新たなダムは不要」ということでした。そして、私たちが入手した貴重な資料を多くの市民に届けたいとの思いで、インターネット上にホームページを開設し、『石木川まもり隊』と名付けました。

#### <支援の輪>

それが 2009 年 7 月、佐世保に移住してちょうど 1 年目のことでした。その頃は川棚町にも既に石木ダムに反対する団体が発足していて、署名活動や県への申し入れなど協力して行うようになりました。

2009 年 11 月には県が強制収用に道を開く事業認定申請をおこない、2010 年には付け替え道路工事を始めたことにより、反対運動が活発化し、翌年には長崎市にも反対派の団体が生まれ、長い間孤軍奮闘してきた川原住民の皆さんへの支援の輪が広がっていきました。

いわゆる支援団体と呼ばれる団体は、今では 14 団体にも達しています。そのうちの 6 団体は県内の団体で、石木ダム建設絶対反対同盟（こうばるの皆さん）と共に座り込みをしたり、月に 2 回の定例会で情報共有や意見交換を行っています。写真 5~7（以前は工事現場ゲート前でやっていたのですが、2017 年からは現場内で重機の下でやるようになりました。少しでも工事を遅らせるためです。また最初の頃は女性だけでやっていて人数が少なかったの、案山子を作り私たちと同じゼッケンを着け、遠くから見るとたくさんいるように見せていました）

座り込み以外にも裁判闘争や県への申し入れ、大きな集会などは 7 団体で力を合わせてや

っています。写真 8

一昨年の強制収用をきっかけに5つの団体が生まれ、そのうちの3つは全国組織で、特に国会議員を含む議員連盟の発足には大きな希望を感じました。

また、ここ福岡にも石木ダムに反対する市民の会ができ、高裁での裁判期日にはたくさんの市民の方が傍聴に来てくださり写真 9、また現場の座り込みにもはるばる参加してくださるなど、今や心強い存在となっています。

全国組織と言えば、先ほど石木ダムがどんなに不要なダムであるか論じてくださった嶋津先生が共同代表を務めておられる団体は、『水源開発問題全国連絡会』略して『水源連』と言いますが、こちらは全国各地でダム問題と闘っている仲間の集まりであり、学者や弁護士、ジャーナリストなどの専門家も在籍し、様々な知識や情報が得られる貴重な団体です。そして国へのヒアリングや不服審査請求など、いつも大変お世話になっています。

もう1つ、パタゴニアという特異な存在があります。アメリカに本社のある国際的なアウトドア衣料メーカーで、会社の方針として環境保護に力を入れており、日本国内でも沢山の団体をサポートしていますが、特に石木ダム問題には注目し、応援して下さっています。例えば、川原を描いた映画『ほたるの川のまもりびと』写真 10 を制作したり、作家や音楽家など著名人写真 11 を川原に案内したり、その著名人がラジオや SNS で石木ダムのことを発信したり...また、田んぼでの音楽ライブ写真 12 を企画し、700 人もの若者を川原に集めるなど...これまでの反対運動とは全く違った、新しい風をおこしてくれました。

#### <当事者意識>

このように大小様々な支援団体がありますが、私たちが大事にしているのは当事者意識です。住民の皆さんが可哀そうだから応援するというのではなく、自分事として考えようということです。必要のないダムの為に土地を奪われ、コミュニティが破壊される、そんな人権侵害を許していたら、それは自分自身への人権侵害も認めることになります。だから、いま目の前にある人権侵害を止めたいのです。

特に私たち佐世保市民はよく『受益者』と言われますが、先ほどの嶋津先生の説明にあったように、実際には『受難者』です。佐世保市が負担する莫大な石木ダム関連事業費は水道会計を圧迫し水道料金の値上げや水道施設老朽化対策の遅れにも繋がりますし、ダム建設後の維持管理費は子や孫の世代へ新たな負担を押し付けることになります。

しかし、市民の多くはそのような事実を知りません。知らないから考えない。声をあげない。まずは事実を知らせることが大事。そのような思いで私たちは情報の伝達・拡散に力を入れてきました。

## <運動の課題と現状>

### ○情報伝達力の格差

街頭でのチラシ配りやスタンディング、署名活動や講演会などを実施していますが、そこで伝えられる相手はそれほど多いものではありません。石木川まもり隊は発足当初からインターネットを使った情報発信に力を入れてきました。はじめはHP だけでしたが、今ではFacebook や Twitter、YouTube などでも発信しています。一昨年は映画を見た神奈川県小学生から、「石木川まもり隊応援メッセージ」という寄せ書き写真 13 が送られてきて大変驚きましたが、インターネットの発信力をしみじみ実感しました。

しかし、石木ダムに反対する県民の割合がどれだけ増えたかと問われると、あまり自信はありません。確かに石木ダムに反対する新聞投稿などは増えましたし、千人集会写真 14 なども実現しましたが、それ以降の広がりはありません。

一方、行政側は、県や市の広報紙、テレビの県政チャンネル、時には一般紙の全面広告を使って石木ダム事業をアピールし続けています。私たちとは比較にならない発信力を持っています。私たちには 130 万人を超える長崎県民に情報を届けることは不可能で、このギャップをどう乗り越えるかが課題です。

### ○無関心層に伝える難しさ

また、情報自体は届いても、そもそもこのような問題に無関心な人の心には届きません。地区別の勉強会などで案内状を 500 世帯にポストイングしても、参加者は 10 名ちょっと。それもほとんど 60 代以上の高齢者です。たぶん現役世代は日々の生活に追われ、時間的にも精神的にも他のことに興味を持つ余裕がないのかもしれない。それはよくわかります。

そこで、少しでも気軽に足を運んでもらえるよう、上映会や写真展写真 15、川原での自然観察会写真 16~17 などを実施すると、年代の幅は広がりますが、その場での感動や関心が持続することは難しく、運動行動に結びつくケースは少ないのが実状です。

1 つの成功事例としては、一昨年佐世保市で開いた緊急集会の参加者の中から、若者を中心としたグループが生まれました。彼らは仮装パレード写真 18 から始まって、去年はアンケートやパネル展写真 19 を実施、そして今年には水道局へ質問書を提出するなど、着実に学び行動しています。このようなグループが県内にもっとたくさん生まれてほしいと願っています。

そして、知った人が何らかの行動を起こすことが大事です。工事が強行されている現在、現場で共に坐りこんでくれる仲間が増えることが私たちの最大の願いですが、それが難しいなら、身近な人に伝えるとか新聞に投稿するとか、県に抗議の電話を掛けるとか、何でも

いい。できることをやってほしいと呼びかけています。知っただけで終わっては、行政を動かすことはできません。ダムを止めることはできません。

#### ○民主主義の形骸化

さらに大きな問題があります。議会です。新聞社による県民アンケート写真 20 では、石木ダムが必要と考えている人は少ないのに、議員のほとんどは推進派です。議会は民意を反映していません。むしろ石木ダム建設促進決議を採択するなどして行政を後押ししています。私たちはこれまでに何度も佐世保市議会に請願を提出してきましたが、全て不採択となりました。だから行政は安心して強制収用への道を突き進んで来れたのです。

2013 年 12 月石木ダム対策弁護団が結成され、翌年川原の皆さんや私たちは裁判に踏み切りました。その後の経過は冒頭に平山弁護士が説明された通りです。私たちは全ての裁判に負け続けています。負けさせられています。石木ダムの必要性がどんなに根拠のない不当なものであるか具体的に立証しても、裁判官は行政の主張を採用し、住民や市民の訴えを退けてきました。これは単に石木ダム問題に限らず、また長崎県に限らず、この国全体に広がっている三権分立の機能不全、民主主義の形骸化そのものだと思います。

この大きな壁の前で、私たちはこれからどう闘って行けばいいのか、途方に暮れている、というのが正直なところです。皆さんのお知恵をお借りできれば幸いです。よろしく願いいたします。